

農泊（農山漁村地域で地域資源を活用し滞在型旅行を推進）の提案書を作成する前の自己チェック表

協議会等名：

事項	適正	不適正
事業の目的	農泊により地域の活性化（農業者等の所得向上、地域の雇用創出、地域の食の安定供給により、地域の儲け）を推進したい。	個人や一部の団体の儲け。
	既に地域内に宿泊、飲食施設がある場合は、地域の活性化の趣旨に賛同した構成員において協議会を設立。	農泊は農林漁業者自ら宿泊や飲食を提供、経営しなければいけないと考えている。
	農泊のビジネス化を推進したい。	儲けは少額で良い。（趣味の延長程度。補助が終わったら活動も終わり。）
取組	宿泊・食事・体験（交流・買い物含む）の3本柱を磨き上げ、弱い柱を中核法人が中心となり指導・改善できる。	宿泊・食事・体験の中で弱い部分は分かっているが、中核法人のマネジメント力が弱いので、改善が難しい。
	滞在型観光（滞在時間が長い、泊りに繋がるコンテンツの磨き上げ）を推進したい。	通過型観光（滞在時間が短い、日帰り）を推進したい。宿泊受入は大変なのでやる気がない。
	宿泊・食事・体験において、 <u>泊まりまで繋がるキラーコンテンツがある</u> 。（そこに行く・泊まる必然性あり）	育てたい観光コンテンツがない。古民家がキラーコンテンツと考えている。
	来訪者と地域を結ぶ取組（知る方法、情報の充実、申込、料金、案内等）が必要と考えている。	コンテンツさえ磨けば来訪者は満足する。
	何回も訪れてもらえるファンづくりを行いたい。（来訪者からみて魅力的）	ファンづくりよりも新規来訪者。（自分達からみて魅力的、エゴ）
	持続可能な価格設定を行う。	料金設定が不適切。（お客様満足度を把握しない、満足してもらえる取組が分からない）不当に安価である。
地域との連携	地域協議会や中核法人が設立済み。又は設立が確実。	地域協議会や中核法人のなり手がおらず、設立する気まではない。
	関係団体や施設において複数人で役割分担を明確化し、中核法人が中心となり各関係者を束ねる。	関係団体や施設において役割分担が不明確。（何もかもほぼ1人で行っている。各関係者がバラバラ）
	地域や役場と仲が良い。	地域や役場と仲が悪い。
	地域や農林漁業者の顔が見え、地域の仲間が一丸となり、やる気がある。	地域の顔が見えない。（見えるのは一部の人のみ）
事務局体制	他の業務を抱えているが、農泊の事務を優先する。	事務をする人がいない。（調査依頼しても締め切りを守らない、事業完了後も必要。）